

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ
教科書	「基礎C言語プログラミング」河野英昭、横尾徳保、重松保弘著(共立出版)
補助教材等	プリント(練習問題)
学習上の留意点	
<p>コンピュータの仕組みを理解するには、ハードウェアとソフトウェアの知識が必要である。コンピュータの動作には、プログラミング言語で記述されたソフトウェアが欠かせない。プログラミング言語の一つであるC言語について演習を行う。</p> <p>人間が思い描いた仕事をコンピュータに処理させるためには、複雑な仕事の内容を単純な処理の組合せに細分化する論理的な思考能力が要求される。積極的に多くの例題や問題に取り組み、プログラミングの基本を身に付けてほしい。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>プログラミングの修得は、教科書のプログラムを入力して終わりというものではない。実際に自分でプログラムを作成することが大切である。プログラミング言語そのものを学ぶことが目標でないことを意識することが大切である。</p> <p>また、情報処理Ⅲ学習後、情報処理Ⅳ、情報処理Ⅴ、情報処理Ⅵへとプログラミングの授業が続く。分からないことは後回しにせず、その時々解決しておくこと。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	プログラミング環境とその操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムとは何か説明できる ・プログラムの作成から実行までができる ・ファイルやフォルダ操作ができる 	(予習)コンピュータの仕組みを理解すること。 (復習)プログラミング環境と操作方法を理解すること。
2			
3	C言語の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・最小のプログラムが書ける ・文字の出力ができる ・適切なデータ型の変数を使うことができる 	(予習)プログラムとは何かを理解すること。 (復習)文字出力プログラムが書けること。
4			
5	簡単なCプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な入出力プログラムが書ける ・計算プログラムが作成できる ・標準ライブラリを利用できる 	(予習)どのような場面で適用できるかを理解すること。 (復習)入出力プログラムや計算プログラムが書けること。
6			
7			
8	中間試験		
9	試験返却・解答解説 処理の流れ(分岐)	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて重要部分、誤答が多かった部分を解説し、理解できる ・分岐処理について説明できる ・if文を用いたプログラムが書ける ・switch文を用いたプログラムが書ける 	(予習)どのような場面で適用できるかを理解すること。 (復習)分岐を用いたプログラムが書けること。
10			
11			
12	処理の流れ(繰り返し)	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し処理について説明できる ・while文を用いたプログラムが書ける ・for文を用いたプログラムが書ける ・break文とcontinue文を適切に用いることができる ・多重ループのプログラムが書ける 	(予習)どのような場面で適用できるかを理解すること。 (復習)繰り返し処理を用いたプログラムが書けること。
13			
14			
	期末試験		
15	試験返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる 	
総学習時間数			45 時間
講義			30 時間
自学自習			15 時間